

第1分科会

「利用者のアウトプットを促進する情報リテラシー」

インターネットの普及後、専門雑誌など学術情報の電子化に加えてオープンアクセス化も進み、剽窃（コピー）・捏造のような研究者倫理の問題視され、さらに事実を歪曲したフェイクニュースなど、ネット上の膨大な情報はますます玉石混交となっています。そのような状況下の図書館には、単に情報を収集・提供するだけでなく、利用者の情報識別眼を磨き、さらに付加価値をつけたアウトプットを可能にする「情報リテラシー教育」の役割が期待されています。この分科会では、専門図書館を活用した「①問題発見」「②情報収集」「③分析」「④解決の立案」「⑤実効性ある企画の提言」を目指し、より効果的な利用者ガイダンスの在り方を考えます。

梅澤 貴典 氏（中央大学職員）

「事実（ファクト）と論拠（エビデンス）を探究する情報リテラシー」

司会：結城智里（（一財）機械振興協会経済研究所 BIC ライブラリ）

運営：柳 一美（㈱日立製作所） 楯石もも子（（公財）東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館図書室）

第2分科会

「著作権法をめぐる最新の動向2018」

文化審議会平成29年4月に公表された文化審議会著作権分科会報告書を踏まえて、柔軟性のある権利制限規定、教育の情報化に関する権利制限規定、障害者の情報アクセス機会の充実に関する権利制限規定、アーカイブの利活用の促進に関する権利制限規定の整備等を内容とする「著作権法の一部を改正する法律案」が第196回国会に提出されている。

本講演の第1部では同法律案の背景となる文化審議会著作権分科会報告書の考え方の解説等により著作権行政を巡る最新の動向について概観し、第2部では日常業務において参加者が直面している著作権に関する問題について質疑応答を行う。

* 第2部のご質問については、第2分科会参加申込者から受け付けます。質問内容の提示方法について、別途事務局からご連絡します。

澤田 将史 氏（文化庁大臣官房著作権課 著作権調査官）

司会：山崎美和（（国研）科学技術振興機構／専門図書館協議会 著作権委員会 委員）

運営：永井昌史（日本化薬㈱／専門図書館協議会 著作権委員会 委員）

第3分科会

「専門図書館をうまく活用するには」

専門図書館のレファレンス担当者は、日々、内外の利用者から受けるさまざまな質問に対応しています。質問の内容によっては、自館で所蔵する資料や扱う情報では対応しきれず、他の類縁機関などに担当者が照会したり、利用者に適切な他機関を紹介することもあるでしょう。そのようなレフェラルサービスに役立つツールとして、専門図書館協議会では1969年から3年に一度『専門情報機関総覧』（『総覧』）を刊行してきました。

この分科会では、まず、『総覧』の最新版を含めた専門情報機関を探せる各種の紹介を行います。特に『総覧』については、新たに追加されたウェブ上で検索できる機能の紹介も行います。次に、企業図書館を一事例として、実際の業務で提供しているレフェラルサービスを事例と共に紹介します。参加者はこの分科会において、日々の業務を行う上での何らかのヒントが得られることでしょう。

① 青柳 英治 氏（明治大学／専門図書館協議会 調査分析委員会 委員長）

「専門情報機関の探し方」

② 中谷 俊介 氏（株式会社 電通／専門図書館協議会 調査分析委員会 委員）

「日々のビジネスにおけるレフェラルサービスの活用」

司会：小泉真理（筑波大学大学院／専門図書館協議会 調査分析委員会 委員） 運営：高田繁則（キハラ㈱）

分科会の概要（午後部：6月28日（木）13:30～16:00）

第4分科会

「研究成果の発信力強化に向けて：今図書館ができること」

今、研究成果の発信媒体が、出版物から電子媒体へと大きくシフトしています。

本分科会では、その中で、自機関が生み出す研究成果の普及促進のために、今後図書館が取り組むべき課題について検討します。具体的には、図書館が運営するリポジトリの研究成果や、自機関の研究者情報を学術情報流通のメインストリームに乗せ、利用促進を図るために、今後図書館が率先して取り入れるべき仕組みとは何か、先進的な事例発表から学んでいきます。

講師は、日本の学術成果の国際的流通促進を目的とした JPCOAR スキーマ策定プロジェクトのコアメンバーである千葉大学の高橋様、物質・材料研究機構で次世代研究者プロフィールサービス構想を推進する谷藤様、海洋開発研究機構で機関リポジトリによる研究成果発信を推進する光森様の3名です。

① 高橋 菜奈子氏（千葉大学附属図書館） 「JPCOAR スキーマによる学術成果流通の向上～機関リポジトリのメタデータを利用しやすく～」	② 谷藤 幹子氏（(国研)物質・材料研究機構） 「リポジトリのこれまで、これから～データを持つ SAMURAI 時代とは」	③ 光森 美奈子氏（(国研)海洋研究開発機構） 「海洋研究開発機構における研究開発成果の発信」
---	--	--

司会：村井友子（(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館） 運営：古根村政義（神奈川県立川崎図書館）

第5分科会

「専門図書館とデジタルアーカイブ」

国内外で様々なデジタルアーカイブが構築され、一般公開が進んでいます。デジタルアーカイブは今後の知識社会を支える重要な基盤です。本分科会では、デジタルアーカイブを巡る全体の動向と課題を明らかにし、図書館においてデジタルアーカイブを構築する時と、公開する際に留意すべき著作権の処理方法、また、実際にデジタルアーカイブに取り組んでいる先進事例を発表します。各図書館にとって、今後の活動指針または方向性が明らかになることを目指します。

① 時実 象一氏（東京大学大学院情報学環 高等客員研究員） 「デジタルアーカイブの全般動向」	② 数藤 雅彦氏（弁護士） 「図書館資料のデジタル化と公開における権利処理」	③ 井上 さやか氏、若狭 正俊氏（渋沢栄一記念財団情報資源センター） 「渋沢栄一記念財団におけるデジタルアーカイブの構築」
---	---	--

司会：田村靖広（(公財)後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館） 運営：渡邊智彦（研修委員会 委員）

第6分科会

「専門図書館をジェンダーの視点で考える～連携の構築をキーワードとして～」

第6分科会では専門図書館がジェンダー視点を持つことの重要性を提案します。ジェンダー主流化は今や世界的な潮流で、国連の掲げる持続可能な開発目標（SDGs）を受け国際図書館連盟（IFLA）でも行動計画を策定しています。一方日本では社会的・文化的性差であるジェンダーの社会的な認識が十分とは言えない状況です。講演者・発表者からの具体的な事例を題材に、ジェンダーの重要性と各館の独自性を踏まえたジェンダー視点について協議します。また各館相互の連携によるエンパワーメントも確認していきたいと思えます。

ジェンダー視点で改めて自分の図書館を眺めてみたら、意外な発見や今までと違う図書館運営のヒントが見つかるかもしれません。

青木 玲子氏 （国立女性教育会館客員研究員） 「専門図書館をジェンダー視点で考える」	<事例発表者> ① 東海ジェンダー研究所 西山 恵美氏 ② 東京大学工学・情報理工学図書館 市村 櫻子氏	③ 防災専門図書館 矢野 陽子氏 ④ 日本女性学習財団 黒澤 あずさ氏
--	--	--

司会：大塚洋子（東京ウィメンズプラザ） 運営：森未知（研修委員会 委員）